

TDA 創立 20 周年記念出版に寄せて

一般社団法人 日本テキスタイルデザイン協会 理事長
今野 文雄

日本テキスタイルデザイン協会は、1995 年 1 月 26 日千葉県幕張のホテル・ニューオータニで協会設立総会が行われスタートをしました。

2011 年には、法人化が承認され、一般社団法人 日本テキスタイルデザイン協会（TDA）として新たなスタートをする事になりました。そして 2015 年、TDA は創立 20 周年を迎えました。

この 20 年の間、繊維業界を取り巻く環境は大きく変化しました。

労働集約型の繊維産業は、安い人件費と安いモノ作りを求めてアジア諸国へ。それは、日本の産地の空洞化を生み「日本製」を見つける事すら困難な時代を迎えています。グローバル化と IT 関連の技術の進歩や SNS の拡大は、販売や流通システムを変え、価値観や我々のデザイン環境を変革するとともに、日常生活にも影響を与えています。

TDA 創立 20 周年にあたり、新たに 2005 年から 2014 年の 10 年間の記録をまとめ、今一度、協会設立の原点に立ち当協会の目的や理念を見つめ直し明確化する事が重要です。

協会設立の理念である「日本のテキスタイルデザインの質を高めることによって、生活文化の向上と産業の発展に寄与する事を目的とする団体である。」の言葉を胸に、これからの 10 年に「TDA は何をすべきか」を真摯に考え、活動していきます。

TDA が、一層の飛躍と社会貢献と世界に向けた日本の優れたテキスタイルデザインを発展させるために対外的な活動を行うとともに、設立からの活動方針であるデザイナーの地位向上とデザインに関する知的財産の保護と運営を明確化する必要があります。

これからも会員の皆様のご協力と積極的なご参加を頂き、世界に向けた日本のテキスタイルデザインを発展させてまいりたいと考えます。

各行政機関、各業界、及び各企業の方々の一層のご支援ご協力を宜しくお願いします。

TDA 創立 20 周年記念出版にあたって

日本テキスタイルデザイン協会

初代理事長 上野 昌男

今般日本テキスタイルデザイン協会が創立20周年を迎えられ、心よりお喜び申し上げますと共に益々の発展を期待致します。

日本経済のバブルが弾け、戦後かつて無い厳しいデフレ経済を経験する中であって、当協会が設立されました。

当初、私が関西大震災の数日前、当時通産大臣であった橋本龍太郎氏（後に総理大臣）に逢って、当協会設立の重要性を申しあげ、1995.1.26東京幕張のニューオータニホテルにて全国より300名を越える人達が集まれ、当協会が発足致しました。

協会設立の賛同者、発起人には、鐘紡株式会社館長佐野正男氏を始め、東洋紡株式会社社長、東レ株式会社社長、島精機製作所株式会社社長、東海染工株式会社社長、岩中毛織株式会社社長、東リ株式会社社長、サントリー株式会社社長、等々業界の主だった人達が多くおられ、これ等の皆様のご支援に感謝を申し上げたいと思います。

広く我々の人間生活に於いて、欠かせないものとして衣食住があります。ここに重要なファクターとしてのテキスタイルデザイン協会の役目は極めて重大であります。

それにも関わらず、当初はグラフィックデザイン、建築デザイン、インダストリアルデザイン、パッケージデザイン、タイポグラフィデザイン等々多数のデザイン協会が全国規模でありましたが、日本の基幹産業である繊維関係では、図案作家の集まりである日本図案家協会とアパレルのファッションデザイン協会があるのみで、私達は広く繊維に関わる全国組織のデザイン協会を設立し、活躍する必要と義務を感じておりました。当協会は「テキスタイルデザイナー」と云われる共通分野に生きる個人、法人、機関に対して、未来社会に於ける「繊維事業の活性化」と「生活文化の創造」に積極的に発言と行動を起こさなければなりません。

過去に於いては、当分野はより素朴で個人的な作家の分野でありましたが、今や世界の情報化とコンピューター化のすばらしい発展で、デザインも自動化、機械化される様になりました。今後はテキスタイルデザインの分野も一個人のものではなく、広く世界的に企業と組み、また企業の中に入り、あらゆるインキュベーションビジネス(ふか孵化)分野の発展に寄与しなければなりません。

当協会も人材の育成からその活用、範囲の広さに対応し、デザイン権利の確保はもとより、会員各位が一体となり、企業と共に業界の発展と世界経済の繁栄に尽力されることを望みます。